『学び合い』を適用した水泳授業が生徒の技能の変容に及ぼす影響について
－「運動能力の二極化」の解消を目的として－

辻　亮太（広島大学）

１．目的

本研究では，「運動能力の二極化」（運動ができる・できないの二極化）傾向が特に顕著に見られる水泳授業に着目した．その課題を解消しうる学習方略の１つとして，『学び合い』（西川，2016）に着目した．『学び合い』は，学習者同士の対話を通して，最後には学習者全員が課題を達成するという学習方略である（西川，2016）．

そこで，『学び合い』を適用した水泳授業が水泳における「運動能力の二極化」の解消にどのような影響を与えるのかを検証することを目的とした．

２．方法

調査期間は，平成 29 年 6 月，7 月，9 月，10 月であった．調査対象者は，A 大学附属 B 中学校 2 年生（男女 80 名）であった．

調査内容については，①スキルテスト，②自己評価シートの作成，③生徒並びに授業者へのインタビュー調査，を実施した．

分析方法はそれぞれ，①Excel2013 による対応のある t 検定（有意水準は 5%未満），②記述の内容を，KJ 法（川喜田，1967）を用いた帰納的分類，③文字化し，上記 2 つの分析の補完に用いた，の 3 つである．なお，本研究においては，単元前の到達距離が 0m～59m の生徒を下位群（35 名），60m～199m（14 名）までの生徒を中位群，200m に到達できていた生徒を上位群（24 名）と設定し，分析を行った．

３．結果

図１に示す通り，単元前後で生徒の技能は有意に向上していた（p＜0.001）．

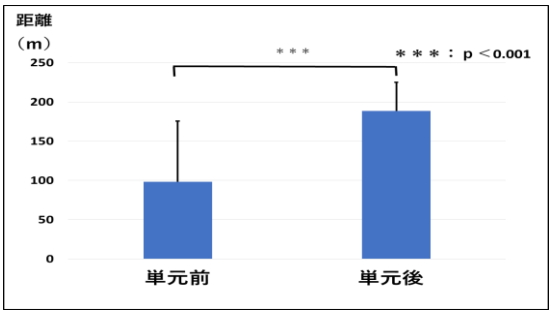

図１．単元前後における泳力の平均値と標準偏差の差

４．考察

自己評価シートの分析において，「対話」に関する記述の割合が，集団全体を通して最も高かった．このことから，技能の向上は，『学び合い』によって表出した「対話」によってもたらされたことが考えられる．

５．結論

本研究では，『学び合い』を適用した水泳授業を実践し，その結果，生徒の技能は有意に向上した．また，上位群，中位群，下位群の技能差も，単元後では大きく解消していた．このことから，『学び合い』による対話は，「運動能力の二極化」の解消に大きな影響を及ぼしたことが示唆された．

＜参考文献＞

・西川純（2016）資質・能力を最大限に引き出す！『学び合い』の手引き，ールーツ＆考え方編ー．明治図書：東京．